

フィールドスタディ（地域再生）の参加報告レポート

早稲田大学政治学研究科 公共経営専攻 亀岡偉一

（１）プログラムの実施スケジュール

日程	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
	8月6日（日）	8月7日（月）	8月8日（火）	8月9日（水）	8月10日（木）
午前	10:00 水沢江刺駅集合 カヌー・ジャパンカップ見学【A】	9:30 開講式【AB】 市長講義【AB】 10:30 広聴広報係ヒアリング【AB】 11:00 商業観光課ヒアリング【AB】 11:30 元気戦略室ヒアリング【AB】	9:00 牛の博物館【AB】 10:00 牛肉生産者ヒアリング【AB】	10:00 奥州藤原の郷【A】 市役所内インタビュー、資料作成【B】	(仮) 8:30 リハーサル【AB】
午後	13:00 水沢駅集合【B】 13:30 後藤新平記念館【AB】 14:40 平泉方面見学【AB】 15:11 水沢 ↓ 15:26 平泉 (中尊寺 17:00 まで)	13:00 宇宙遊学館・天文台【AB】 14:30 田んぼアート見学【AB】 15:00 及源鋳造【A】 伝統産業会館【B】 16:00 水沢江刺駅見学【AB】	13:30 特別講義【AB】 15:00 高野長英記念館【AB】 16:00 齋藤實記念館【A】 奥州市観光物産協会【B】	13:00 発表準備 16:00 (仮) 中間発表【AB】	13:30 政策提言発表会【AB】 16:00 解散
夜	18:30 地元特産物調査【AB】	18:00 歓迎会【AB】	18:30 政策提言資料作成【AB】	18:30 政策提言資料作り【AB】	

（２）プログラムの内容要約・取り組んだ課題

フィールドスタディの授業では地域が抱える問題について、「学生の視点」を交えて自由な視点で政策提案をさせていただくものです。政策形成においては、現場での視点や意見を聞きながら進めていきます。奥州市のフィールドスタディにおいても、奥州市長の小沢市長をはじめとして、市役所の方々、地元農家やJA、地元で働く方々のご協力を得ることで、多岐に渡る意見を聞き、体験をさせていただくことで政策提案をすることが出来ました。また、奥州市でのフィールドワ

ークは今年で8回目であり、継続して奥州市での政策提案をさせていただける関係を続けてきてくださった、藤井教授をはじめ公共経営大学院の先輩方のおかげでもあります。

今回のフィールドスタディでは7名の学生が参加して2班に分かれて政策提言を行いました。奥州市では「今年はPRの年」という2017年に大きなテーマを掲げております。今回のフィールドスタディの事前講義では、「奥州市に縁のある人物とのコラボレーションによる奥州市のPR戦略について」という大きなテーマで始まりましたが、奥州市役所の方々を含めた事前講義の中で「奥州市をより多くの方に知っていただくための戦略」というように質疑応答をさせていただく中で、目標のすり合わせをしながら変更していきました。

具体的な政策提言を行うべく、奥州市には4泊5日滞在し現地調査・研究をしました。現地では、市長様や議員様、市役所の方々など、通常学生であればなかなかお話を伺うことができない方々のお時間を頂戴し、貴重なお話を伺いました。また、歴史博物館や奥州三大牛を堪能し、観光資源がどのような経緯で成り立っているのか、人の動きがどのようになっているのか等を、実際に足を運んで調査しました。最終日に、奥州市PR戦略について、市役所にて市長様はじめとする方々に政策提言をさせていただきました。



後藤新平記念館でのヒアリング

(3) 参加して得た成果、感想



地元JAの方々との意見交換会

フィールドワークの事前講義を通して、奥州市役所の担当の方々を含めて、今回の課題に対する問題点について調査をしました。市役所の方々の講義に加えて、自分たちで情報収集を繰り返し、フィールドワーク直前には講義外でも班で集まり、自分たちで問題の深堀・仮定・調査すべきヒアリング内容をさらに研究しました。実際にフィールドワークを行う中で、事前準備・知識の習得の大事さを痛感するとともに、本気で奥州市の役に立つ提案をしたいという思いが強くなっていきました。想定していたこととは異なる問題点や、先行研究や理論に加えて地域の現状や成り立ちなどを考慮して、地元の方々の役に立つ政策提案を考えなければならないことを学びました。

政策提案のための議論を進めていく中では、班の中で多様な意見が出る一方で、深堀や意見をまとめることの難しさに直面しました。様々な切り口で考えているうちに、解決すべき問題点から離れてしまうことや、論理的には説明が出来なくなってしまうこともありました。そのような状況では他の人の意見を最後まで聞き、その意図まで共有することや、寝食をともにするなかでコミュニケーション

ンをより濃密に取ることによって信頼感も高まり、一人では思いつかなかったアイデアに結びつくことができました。同じゴールを目指す仲間と濃密な多くの時間を過ごし、意見をまとめながら地域の抱える問題解決のために語り合いながら、知恵を絞る経験ができたことは、とても素晴らしいものになりました。

(4) プログラムのおすすめポイント等

上記でも触れてきておりますが、実際に地域が直面している課題に対して、現場を体験しながら仲間とともに本気で政策提案について考えることができます。事前講義を含めた能動的な事前準備や、現地でのフィールドワークなど、自分たちで解決策を探る中で多くの方々が快く協力をしてください。それにより、奥州市への愛着や奥州の方々の役に立ちたいという気持ち強くなると感じました。普段の座学では学習できないこと、経験できないことをさせていただけることと、本気で一つのことに向かって寝食をともにした仲間を得ることが出来るのが、このプログラムの意義だと感じました。ここでの経験は今後、どのような仕事に従事していくうえでも公共経営専攻の学生には必ずや有意義なものになると思いました。

最後になりますが、このような素晴らしい授業をしていただいている、藤井教授をはじめとした大学院の方々と、小沢市長をはじめとする奥州市の方々には学生一同、重ねて御礼を申し上げます。

